

■二つのショックに直面する中東・北アフリカ経済

九門 康之

(本件は、2020年4月13日付けで中東研究センター・ニューズリポートに寄稿したものです。)

<二つのショックによる景気減速>

世界銀行が2020年4月の経済見通しで、中東・北アフリカ(MENA)の経済が二つのショックに直面していると指摘した。一つは新型コロナウイルスの蔓延であり、もう一つは原油価格の急落である。同行は、これら二つの主要因を背景として、MENA地域の経済成長見通しを大幅に引き下げた。

世界銀行によると、MENA地域全体の成長率の見通しは、昨年10月時点の2.6%から3.7%ポイント低下し、前年比マイナス1.1%となる見込みである。MENAの産油国では、イランがマイナス3.7%、オマーンがマイナス3.5%、アラブ首長国連邦(UAE)がマイナス1.1%と軒並みマイナス成長で、プラス成長はサウジアラビアの0.2%とカタルの0.4%にとどまる。非産油国は更に厳しく、レバノンがマイナス10.9%、チュニジアがマイナス4.0%、ヨルダンがマイナス3.5%と続く。ただし、エジプトの成長率は低下するものの、3.7%を維持するとみている。

<新型コロナウイルス>

世界銀行は、情報開示、情報の透明性、および国民への周知の程度により、感染症への対応結果が左右されると指摘している。世界各国の医療政策対応についてまとめた世界医療安全保障指標(GHSI)2019年版によれば、MENA諸国の評価は全般的に低い。総合評価でトルコが195カ国中40位、サウジアラビア47位、UAE56位で、エジプト87位およびイラン97位は世界平均以下であった。

新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が低下している国が世界で増えている。MENA地域でも2月にイランで新型コロナウイルスの感染が拡大し、その後、湾岸諸国、トルコおよび北アフリカに広がった。感染拡大阻止のため、サウジアラビア、UAEが日中を含む外出禁止令を発令した。夜間の外出を禁止している国は更に多い。外出禁止等の行動制限は消費を減少させ、景気にマイナスの影響を与える。

<原油価格低迷>

原油価格の低迷が、新型コロナウイルスによる経済活動の低下に追い打ちをかけている。3月6日にOPECプラスの減産交渉が決裂した。その後、サウジアラビアが大幅な増産を発表したことから原油価格が急落し、1バレル20ドル台に突入した。クウェート、サウジアラビア、UAE他主要産油国は財政収入の過半を石油輸出入が占めており、収入減少に

伴う支出削減により景気の減速が懸念される。非産油国は産油国から投資を受け入れ、また労働力を産油国に提供して出稼ぎ収入を得ていることから、産油国の景気の影響を受ける。

4月12日に OPEC プラスが日量 970 万バレルという未曾有の大規模減産に合意した。10日には G20 でもエネルギー需給が議論されている。今後、MENA 地域の景気回復には、コロナ禍が去ることはもとより、原油価格が回復することが必須である。動向を注視したい。

以 上